

(別添1)

【琴浦町】 端末整備・更新計画

【琴浦町立小中学校】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	1,220	1,152	1,130	1,081	1,054
② 予備機を含む 整備上限台数	0	1,324	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	1,152	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	1,152	0	0	0
⑤ 累積更新率	0	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数		172	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの		172	0	0	0
⑧ 予備機整備率		14.9%	0	0	0

(端末の整備・更新計画の考え方)

・町内の小中学校の端末について令和7年度に全体更新を行う。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,044台

○処分方法：購入契約を行った事業者による下取り処分

○端末のデータの消去方法：事業者が実施

○スケジュール(予定)：端末更新終了後(令和7年9月予定)に既存端末を事業者に引き渡す。

○その他特記事項：事業者に対して、令和5年10月26日付け事務連絡「GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末等の適切な処分(再使用又は再資源化)等について」の趣旨を踏まえた対応についての協力を依頼。

(別添2)

### 【琴浦町】ネットワーク整備計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
十分なネットワーク速度が確保できている学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%
アセスメントの実施有無	有	無	無	無	無

※「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査（文部科学省・令和5年11月実施）」の調査結果では、「学校規模ごとの当面の推奨帯域（文部科学省・令和6年4月）」（以下「推奨帯域」という。）を満たす学校数は7校中1校であった。その後、校内ネットワーク保守事業者及びインターネット事業者と協力してネットワークアセスメントを実施し、通信速度を再度計測したところ、すべての学校で推奨帯域を満たすことが確認できた。

（アセスメントにより明らかとなった課題、課題解決の方法・予定）

- ・校内ネットワークの入口にあるルータの直下でPCを有線接続して速度測定した結果、全ての学校で当面の推奨帯域以上であることを確認した。
- ・ルータからアクセスポイントまで速度低下は確認できなかったが、アクセスポイントと端末の間で速度低下が見られたため、原因を調査したところ、アクセスポイントの接続設定を変更することで解決した。

（備考）

- ・学校によっては無線アクセスポイントが設置されていない特別教室等があるため、状況により機器移設・新設を都度行う。

○アセスメント結果（令和6年7月23～26日実施）

学校名	推奨帯域 (Mbps)	ルータ直下実測値 (Mbps)	判定
浦安小学校	395	498	○
八橋小学校	323	500	○
聖郷小学校	216	494	○
赤碕小学校	377	489	○
船上小学校	216	516	○
東伯中学校	408	502	○
赤碕中学校	377	524	○

(別添3)

### 【琴浦町】校務DX計画(案)

令和6年12月26日付 6初情教第10号「『GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト』に基づく自己点検のフォローアップの実施結果(速報値)について(通知)」(以下「自己点検結果」という。)における自治体別達成状況では、琴浦町は全国平均をやや上回る数値となっている。(本町立小・中学校7校の平均:322.3点、全国平均398.8点(各自治体平均から算出)、鳥取県平均402.3点)

上記調査の結果、多くの学校で校務DXが進められつつあるが、クラウド環境を活用した校務改善等の進捗状況には学校間で大きな差があり、また、他自治体と比較しても進捗が遅い状況が明らかになった。

この状況を鑑み、より一層校務DXを進めていくため、特に課題のあった下記項目について、課題と解決策を下記のとおり計画し、今後重点的に取り組んでいく。

#### 1 職員間の情報共有や連絡に、クラウドサービスを取り入れているか

【目標値:100%(R8)】

自己点検結果によると、職員間の情報共有や連絡に、71.4%の学校がクラウドサービスを利用している一方で、28.6%の学校が「取り入れていない」と回答しており、学校間の差が生じている状況である。

町教育委員会としては、クラウドサービスを活用した職員間の情報共有や連絡について、実施校の事例を情報共有して町内各学校に展開する等により、所管学校に対して働きかけを行っていく。

#### 2 校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるようにしているか

【目標値:100%(R8)】

自己点検結果によると、校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約について、「一部している(半分以上)」学校が14.3%で、「全くしていない」学校が42.9%である。ほぼ半数の学校で、日程共有や施設予約等におけるクラウド活用が進んでいない状況である。

町教育委員会としては、ICT支援員と連携し、クラウドサービスを使った日程共有や施設予約等について、導入・運用に係る研修や訪問支援を行ったり、クラウドサービスのフォーマットを提供したりして、各学校におけるクラウドサービスの積極的な活用を促していく。

#### 3 教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用しているか

【目標値:100%(R8)】

自己点検結果によると、教職員が作成した教材等のクラウド上での共有・活用については、「一部している(半分以上)」学校が28.6%、「一部している(半分未満)」学校が28.6%、「全くしていない」学校が42.9%であり、大きな差が生じている。

町教育委員会としては、ICT支援員と連携し、クラウドサービスの活用・操作に係る研修を行ったり、各種クラウドサービスを活用した校務の効率化等の情報交換・先進事例の共有を行い、クラウド環境の一層の活用を進めていく。

- 4 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計しているか

【目標値：100%（R8）】

自己点検結果によると、「完全にデジタル化している」学校が14.3%、「一部している（半分以上）」学校が28.6%、「全くしていない」学校が57.1%であり、半数以上の学校が取り組めていない実態にある。

町教育委員会としては、学習eポータル保護者連絡機能の活用を進めていくとともに、導入に踏み切れていない学校が考えている、クラウドサービスを用いることでの課題をともに解消していける方策を検討していく。

- 5 「FAXの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常の業務にFAXを使用していますか

業務で押印が必要な書類はありますか

【目標値：100%（R8）】

自己点検結果によると、全学校でFAXを使用しており、また、85.7%の学校が押印が必要な書類があると回答している。

町教育委員会としては、令和5年度末に管理規則を一部改正し、学校からの提出書類の多くで押印省略としており、今後も押印の省略及び記名をもって署名に代えることで事務の簡素化を進めていく。FAXでのやりとりについては、相手先やその理由について確認し、FAX以外でのやりとりに移行できるように体制を整えていく。

(別添4)

## 【琴浦町】 1人1台端末の利活用に係る計画（案）

### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」時代の到来や、我が国における人口減少と少子高齢化、高度情報化の急速な進展、SDGsに関する取組の全国的な広がり、新型コロナウイルス感染症への対策など、教育を取り巻く環境は大きく変化し、教育の在り方についても時代に応じた変革が求められている。

先行きが不透明で「予測困難な」時代となる中、学校教育においては学習指導要領の着実な実施とICTの活用により、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること（学習指導要領前文）」が重要であり、これからの社会を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、GIGAスクール構想で整備したICT環境を基盤として、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた「個別最適な学び」と、多様な他者と共に問題の発見や解決に挑む「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を一層推進していくことが求められる。

そこで、GIGAスクール構想により実現した、子どもたちの1人1台端末環境をいかに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、子どもたちが自ら進んで学習する自律的な学習者となり、自由な発想でICTを活用し、見出した課題を主体的に解決する探究的な学びを推進する。また、子どもたちがICTを十分活用し、その恩恵を享受できるようにするために、教職員のICT活用指導力向上、ネットワーク環境の整備、教育データの活用、推進体制の整備、校務の改善等、ICT教育環境をソフト、ハードの両面で整備していく。

### 2. GIGA第1期の総括

全町共通の学習用ツールを導入するとともに、小学1年生から中学3年生まで引き継げるアカウントを活用することにより、教職員、児童生徒とも同じ環境で学びを継続することで、授業や学校生活における日常的なICT活用が進んだ。また、オンラインやクラウドを活用した多様な学びに1人1台端末を活用する姿が見られるとともに、オンラインアンケート等による業務の改善が見られるようになった。課題提示や動画視聴といった従来の教員の教具的な活用から、クラウドによる意見共有・参照や協働編集による学習成果物の作成等、児童生徒が自らの課題解決のために主体的・自律的に端末を活用する学校が増えてきた一方、課題として、教員間、学校間のICT活用、ICT活用指導力に差がみられることから、引き続き、情報活用能力等、児童生徒が自ら学ぶための「学び方」を身に付け、発揮できるよう教員の授業観の転換を図る研修の実施や、取組の共有化、外部人材の活用等が必要である。

GIGA第1期のネットワーク整備やアセスメント等の実施により、通信環境の改善は図られているが、今後の通信料増大も想定されることから、安定した高速大容量通信環境に向けて、引き続き、ネットワークの確実な点検を行い、必要に応じて改善を図っていく。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第Ⅱ期においても、引き続き児童・生徒に1人1台端末の環境を確保するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、円滑に学べるよう、今後の通信量の増大に向

けて、次世代ネットワークによる安定した高速大容量通信環境の確実な確保を図るとともに、1人1台端末の整備・更新を確実に実施する。

#### (1) 教職員のICT活用スキルの向上

- ・学校教育の情報化を進め、学習指導要領に資質・能力として示されている「情報活用能力」を体系的に育成していくため、校内の情報化推進リーダーに学習の基盤となる機器の操作と授業づくりに関する研修等を実施し、すべての教職員の指導力・活用力の向上を図る。具体的には、情報化推進リーダーの養成や教員のキャリアステージに応じたICT活用研修等を実施し、ICTを活用した授業力・活用力の向上を図る。
- ・ICT支援員を配置し、各教員の授業支援を行いながら、同時に授業力・活用力の向上を図る。

#### (2) 1人1台端末の積極的な活用

- ・GIGAスクール構想により整備したクラウド環境はもとより、学習eポータル「まなびポケット」、MEXCBT、デジタル教科書、学習支援ソフト「ロイロノート・スクール」、ドリル教材「ドリルパーク」等、さまざまなツールやソフトウェアの活用場面を創出する。また、今後は生成AIの活用についても検討を進めていく。
- ・家庭への端末の持ち帰りを進め、学校と家庭とが連続した学びとなるよう日常的な端末活用を推進していく。

#### (3) 個別最適・協働的な学びの充実

- ・これからの社会に対応する資質・能力を育成するために、基盤となる情報活用能力を育成するとともに、「自ら学び取る授業」の実現に向けた探究的な学びに取り組み、児童生徒が学びのツールとしてクラウド活用することにより、児童生徒一人一人が目標に向かって、情報を収集しながら自分のペースで学習したり、共有機能やオンライン会議等を用いて、他者の考えを参照したりしながら自ら学んでいくような授業（個別最適な学び、協働的な学び）の推進を図る。
- ・デジタルとアナログのベストミックスを図り、自由進度学習や問題発見解決型学習（PBL）等、さまざまな学習方法についても調査研究を進めていく。これにより、児童生徒自ら情報を収集し、分析する過程で自主性を育み、グループワークやディスカッションをとおして協調性やコミュニケーション能力の向上を図っていく。

#### (4) 学びの保障

- ・ICTの特性を最大限活用し、個に応じた指導の充実を図るとともに、不登校や病気療養等により特別な支援が必要な子どもたち、発達支援が必要な子どもたち等に対する学習機会の確保、多様な学びの機会の提供に向けた取り組みを推進する。